学　年	教科等	小単元名	日　時
第４学年	総合的な学習の時間	広がれ！つながれ！まごころエコプロジェクト	令和４年１月 17 日（月）５校時

○　子どもの姿からの報告

研究内容1：「探究する」おもしろさを実感する単元構成の在り方

探究活動1
「附属小学校のエコを徹底調査！」

PTCA活動

家庭内実践

探究活動2「めざせエコ博士！」
探究活動3「まごころエコ楽器隊！」

家庭内実践

探究活動4
「広がれ！つながれ！まごころエコプロジェクト」

〈本時の発問〉
　冬の家庭内実践や、これまでのみんなの発言に「工作」が増えたのはどうしてかな？

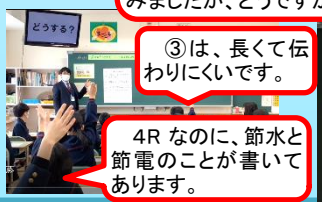
「のびよささの葉っ子チャンネル」で工作を作ったので、そこからつながって工作が広がっていったのではないかと思います。

そうそう！

他県には、エコライフチェックシートというものがありましたが、宮崎県・市では見つけられませんでした。そこで、先生が実際に作ってみましたが、どうですか？

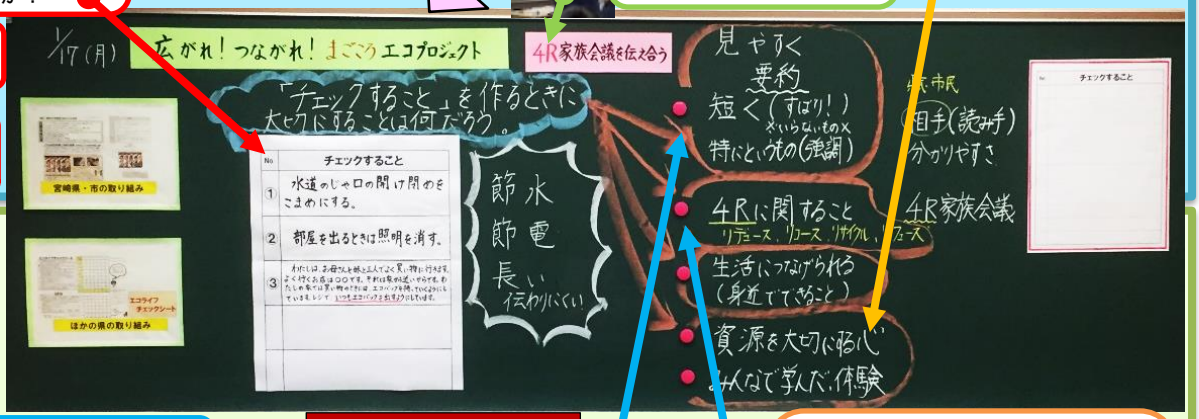
「チェックすること」は、どうして4Rに関することでないといけないの？

4R に関することを家族で話し合うことで、4R 家族会議になるので、そうでないとただの家族会議になってしまいます。



③は、長くて伝わりにくいです。

4R なのに、節水と節電のことが書いてあります。

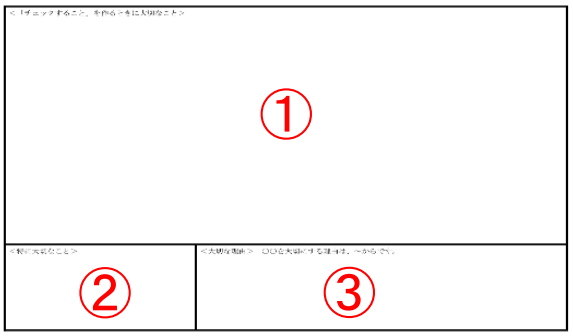


研究内容2：「考えるための技法」を生かした学習活動の在り方

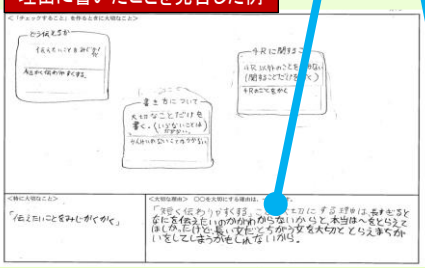
今から「チェックすること」を作るときに大切なことについて、次の考え方を使って考えてもらいます。この考え方はどの学習で使いましたか。

国語の「『ふるさとの食』を伝えよう」で出てきました。

そうですね。同じように付箋を渡しますので、最後は右下に理由を書いてくださいね。



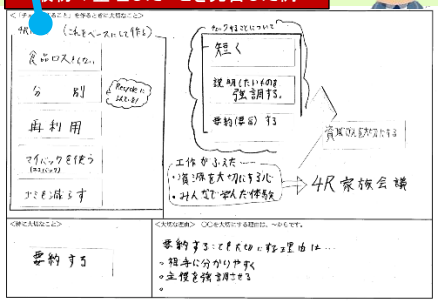
理由に書いたことを発言した例



理由を明確にする一連のプロセスにより、自分の考えが確かなものになります。考えと理由のどちらを先に問うかは、その時々の展開によりますが、理由を問うことで、根拠となる考えを自覚させたり、仲間の考えと関連付けさせたりすることができます。
　国語科での学びを総合的な学習の時間で生かし、その後は、総合的な学習の時間から国語科、さらには、他教科等へと往還させ、活用していくことで汎用的な力へと磨かれていくと考えています。

← 国語科「ふるさとの食を伝えよう」で用いた理由付けを行う思考ツール
【手順】
①：考えを一度拡散させ、それをグループにまとめて整理し、見出しを付ける。
②：一つ、もしくは複数に絞り込む。
③：②の理由を書く。

最初の整理したことを発言した例



○　考察

研究内容１：
　「宮崎県・市にエコライフチェックシートがないのであれば作りたい！」「先生の作ったシートだと広がらない、取り組みたいと思わない！」「４Ｒに関することでないと４Ｒ家族会議にならない！」「家庭内実践や発言に『工作』が増えたのは、『のびよささの葉っ子チャンネル』のときに、いらなくなった物等を使ってみんなで楽器づくりをしたから！」これらは、本時の問いを自分事として捉えたり、単元のゴールを意識したり、これまで学んだこととつなげたりしている、本時の子どもの姿である。本時の導入での教師自作の資料の提示や、終盤での意図的な発問、さらには４つの小単元の構成が、「探究するおもしろさ」を高めていたと考える。今後も、子どもが問いをもち続け、自分事として考え、学習したことが日常へとつながるような単元構成を模索していきたい。

研究内容２
　子どもは、「チェックすること」を作るときに大切なこととして、「①見やすさ（短く）」「②４Ｒに関すること」「③生活につなげられる身近にできること」「④資源を大切にする心」「⑤みんなで学んだことや体験」の５つを見いだすことができた。①～③については、思考ツールを用い、そこでの考えや理由を基にやり取りした結果である。④⑤については、教師の発問によるものである。考えを分類したり、理由付けたりすることで、根拠となる考えを自覚させたり、仲間の考えと関連付けながら、問いに対する考えを見いだす姿が見られたりしことは成果である。今後は、一つの方法に限定せずに、複数の思考操作から子どもが選択し、考えをもつ展開についても模索していく必要がある。